

谷津田の四季ののらしごと ~ 冬編

大友英寿（千葉市稲毛区在住）

早いもので、昨年五月からのこの連載も今回が最後となりました。最後は秋の収穫後の冬の野良仕事を御紹介いたします。

麦畑の排水

耕さない田んぼでは秋に麦をまきました。麦は土が乾いていた方が良く育ちます。谷津田、それも暗渠排水をしていない田んぼでは地下水位

も高く、土中水分は多めです。これを少しでも少なくするために、秋に田んぼ内に掘った溝の泥さらいをします。泥がたまる原因はいくつかあるのですが、その中でも大きなものがふたつあります。ひとつは霜柱。寒い日は、V字またはU字型に掘った溝の内側の側面から霜柱ができます。これがある程度まで大きくなると、重みで周囲の土ごと崩れ落ちてしまうのです。もうひとつの原因はモグラのみなさん。彼らは冬でも活発で、田んぼの中も畦の中も縦横無尽に歩きます。あちこちにモグラ塚や穴ができますが、この時期は埋めません。むしろ、麦畑の乾燥や排水のお手伝いをしていただいている感じです。「お会いしたらお礼を



大麦の芽（小山、2009/01/08）



泥をさらった田んぼの溝と、溝の水面に映ったお月様（下大和田、2009/01/06）

…」と思うのですが、なかなかお会いできずにいます。そんな中、唯一困るのが上記の排水溝側面に、穴をあけていただいた時です。溝の側面にポコッとあいた穴からは泥が溝底面にこぼれ落ち、水の流れを邪魔してしまいます。この泥を早めにさらわないと麦畑も湿りますし、雨が降ると水をせきとめ、結果的にモグラ穴にも浸水してしまうので要注意です。

葦倒し

お手伝いしている田んぼのいくつかは、周囲をぐるりと葦原（休耕田）に囲まれています。上の田んぼからの水の流れをよくするためと、不法投棄を招かないために葦を倒しています。一昨年までは足で踏み倒していたのですが、昨年からは木の板で作ったすのこを使っています。すのこを葦に立てかけて、足ですのこごと踏み倒すとかなりの速さで倒せます。いくら倒しても春にはまた葦がはえてくるのですが、少なくともそれまでの間は見晴らしも良いですし、前年の枯れた葦が残らない分、葦原に戻っても風通しが幾分良いようです。

水路の整備

春編でも書きましたが、暗渠のない田んぼでは小川や水路の整備が不可欠です。特に年々休耕田が増えている下大和田の谷津田では、小川の中にはえる葦や、堆積する泥により、だんだん地下水位が上がっているようで、どの田んぼでも水はけが徐々に悪くなってきています。今後なんらかの対策を講じない限り、田作りはだんだん難しくなると感じています。



葦原とすのこ（下大和田、2009/01/06）

冬の谷津田の野良仕事は春や秋に比べると、何かに追われるということが少なく、どちらかと言うと落ち着いて作業ができています。もっとも、寒さの中で霜にあたりながらも元気を保ち続けている麦達がいなかったら、私も冬は他の動物達にならって冬眠してしまうかもしれません。私がお手伝いしている下大和田の田んぼで野良仕事をしていると、「谷津田」の「田」がかなり抜け落ちた「谷津」である事をひしひしと感じます。特にこの時期の水路の整備では、いやというほど痛感します。

「田」は人間の絶え間ない介在があって初めて成立するものであり、休耕田はあつという間に葦原になり、「谷津田」が「谷



下大和田Y P P 田んぼ下流の小川、葦を刈る前（左）と5メートルほど刈った後（右）。これにより、上流の水位が1.5センチ下がった（下大和田、2009/02/15）

津」に戻ります。それは人間抜きで自然の力であり、もしかしたら治癒力(復元力)であり、かつてこの国が「豊葦原瑞穂国(とよあしはらみずほのくに)」と呼ばれた事があるように、葦原も命のゆりかごであり、大地を乾燥や荒廃から守って、次の田の担い手が現れるまでの「かさぶた」のような役目もあるのかな、などと考えたりします。

当連載をお読みいただき、誠にありがとうございました。帰農してまだ三年半の若輩ゆえ不備もあったかもしれませんが、どうぞ御容赦ください。これからも小さな命達にたくさんの事を教わりながら、田作りをしていきたいと思ひます。地元のみなさまやYPPのみなさまには今後もお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

谷津田いきもの図鑑 No.27

ウグイス

日に日に暖かさが増してきて春もすぐそこまで来ているようです。関東地方では今年の2月中旬に早くもさえずりが聞かれたそうです。春になると下大和田でもさえずりがあちこちの藪から聞こえてきます。取り合わせのよい例えとして「梅に鶯」という慣用句があります。この取り合わせは花札や花鳥画にもよく描かれています。ウメの木にウグイスが来ることはほとんどありません。多くはメジロをウグイスと間違えたためと考えられています。その証拠に鶯色はメジロの背部の色のことを言い、実際のウグイスは茶褐色をしています。しかし、誰もが「ホーホケキョ」のさえずりは知っていますが、その姿をじっくりと見たことのある人は少ないと思ひます。これは、ウグイスが竹藪などの藪が好きで、滅多に開けた場所に現れないためです。逆に言うと見通しが悪い藪の中で、なわばり相手の雄やプロポーズ相手の雌に自分の存在を知らせるために大きな美しいさえずりの「ホーホケキョ」のさえずりは進化してきたとも考えられます。英名の 'Bush Warbler' (藪の歌い手) はそのまま生態を表しています。



ヤブの中のウグイス(下大和田にて、撮影：網代春男)

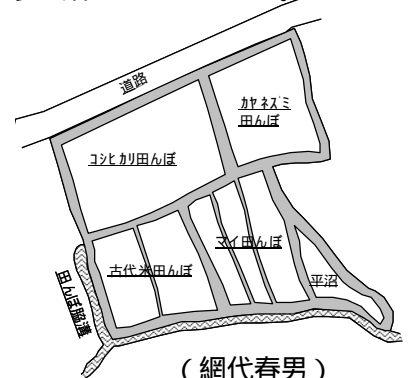
みなさんはウグイスのさえずりに2種類あることを知っていますか。「ホーホケキョ」の2番目の「ホ」が高い声で入るH型の場合と「ホーホホケキョ」と低い声で入るL型場合があります。H型は、縄張り宣言とメスを呼ぶ信号でL型は他のオスを威嚇する信号になっていることが知られています。気をつけて聞いてみてください。また、繁殖期以外は地鳴きの「チャツ、チャツ」という声を出します。この声は「笹鳴き」とも言い、冬は意外に身近な住宅地や都市公園でも聞かれます。

ウグイスのニュースでは1922年(大正11年)に南大東島での報告例の後絶滅したと考えられていた亜種のダイトウウグイスが2002年に80年ぶりに沖縄本島、喜界島で報告され話題になりました。ダイトウウグイスは、赤褐色をしているそうです。(越川重治)

2009年 下大和田 YPP 田んぼのニホンアカガエル産卵状況

1月30日、31日、2月1日、15日と卵塊数を数えました。下大和田では29日の晩から産卵が始まったようです。石橋さんが29日に田んぼの作業に入った時にはひとつもなかったそうです。他地域で産卵が始まったと聞き網代が30日に見に行ったところYPP田に57個産卵してありました。下記の表から30日の晩に16個、31日の晩に19個産卵したことになります。2月15日の「YPPアカガエルの卵塊調査と田んぼの手入れ」の日には209個になっていますのでこの間に117個産卵したことになります。アカガエルの産卵は冬型の気圧配置が緩み雨の後など気温が高くなった夜に行われると言われています。確かに、1月の25,26,27は晴の日が続き、28は曇、29日は雨が降った日でした。30,31も雨模様でした。2月7日に1回目の夜の観察会をしましたが1匹も現れませんでした。この夜は月が煌煌と輝いていました。気温は1.4で冬型の気候でした。2月14日の2回目の夜の観察会は気温が24もあった日の晩で下大和田では田中さん、高橋さんが、また小山町では高山さんが産卵を観察し、写真にも収められました。なお、昨年2008年は寒い日が続く2月3日雪の日の観察会ではYPP田に卵塊はありませんでした。22日になっても14個だけでした。23日以降は調査していませんが14個だけとは考えられませんのもっと遅くに産卵があったものと思ひます。また、2007年は暖冬の年で1月27日には58個の卵塊が確認されています。このように産卵は気候に大きく作用されるようですが、この3~4年比較すると卵塊数は今年が一番多いようで嬉しいことでした。

年 月/日 調査者	2009年				2008年	2007年	2006年
	1/30 網代	1/31 高山	2/1 観察会	2/15 YPP	2/23 YPP	2/20 網代	2/19 YPP
1 コシヒカリ田んぼ	30	39	39	39	0	20	33
2 カヤネズミ田んぼ	21	22	25	70	11	22	40
3 古代米田んぼ	0	1	13	34	11	72	24
4 マイ田んぼ	6	11	15	15	3	31	0
5 平沼	0	0	0	51	0	13	15
6 田んぼ脇溝	0	0	0	0	0	16	6
計	57	73	92	209	25	174	118





里山たんけんレポート

第 109 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009 年 2 月 1 日(日) 晴れ

昨日までの大荒れの天気から一転晴れましたが強風が吹き荒れました。強風のためか鳥は鳴かず飛ばずで普段の半数程度の種類しか確認出来ませんでした。一巡しながらニトコ、クズ、コブシなどの冬芽と葉痕を楽しんだりもしました。気温は緩み、暖かく、ムラサキシジミが飛び出し、カナヘビも 2 匹現れました。小川にはアメリカザリガニが出ていたり、田んぼではメダカが群れをなして泳いでいたり、小さいゲンゴロウも泳いでいました。下大和田の谷津田では 29 日の晩からニホンアカガエルの産卵が始まりましたが、一昨日の雨で卵塊がいっそう殖えました。各々の田んぼの卵塊カウントもしました。定例の観察コースでの卵塊数は 539 個でした。ちなみに去年は寒く、観察会時(2/4)には 5 個でした。今年は暖冬なのでしょう大分早まっているようです。真冬の観察会も楽しめるものがたくさんあって満足しました。

(参加者 大人 5 名、子ども 2 名; 報告: 網代春男)

第 93 回 下大和田 YPP「アカガエルの卵塊しらべ・田んぼ / 林の手入れ」 2009 年 2 月 15 日(日) くもり

最初にみんなで YPP 田んぼでのニホンアカガエルの産卵状況を調べました。今年の産卵の始まりは 1 月 29 日で、その時に産み付けられた卵からは小さなオタマジャクシが生まれていました。その時点での卵塊数は数えてあったので、新しい卵塊に注目して調べました。カウンターを手一人ずつ数えていくつあったのかを比べました。今年の YPP 田んぼの合計の卵塊数は記録的に多い 209 個でした。調査のあとは田んぼの畦の補修や林のササを切ったり、折れた枝を除いたりしました。木のウロにすごい数のサシガメが集まって越冬しているのを見つけるなど発見もありました。前日は 2 月としては異常な初夏を思わせる陽気でその余韻が残る暖かな日で、木の枝にクモが円い網を張っていたのも驚きでした。

(参加者 大人 12 名、小学～高校生 5 名、幼児 1 名)

報告: 高山邦明)



卵塊調査記録表を持ってみんな集合 (撮影 田中正彦)

第 41 回 小山町 YPP「田んぼづくり」

2009 年 2 月 22 日(日) 晴れ

YPP の田んぼと去年地元の小学校が米づくり体験をした田んぼの間にあるアシ原を起こして田んぼにする作業をしました。学校の先生方やボランティアの保護者の方が大勢集まって下さり、にぎやかな作業です。もうかなり長い間米づくりをしていなかった場所なので、アシや雑草がびっしりと根を張っていて、それをスコップで小さな塊に壊していくのは大変な作業です。先生やお父さん、お母さんだけでなく、子どもたちも顔を真っ赤にしてカー杯スコップを押していました。時折、泥の仲から冬眠していたアカガエル、ザリガニ、ケラなどがはい出してきました。ちょっと早く目を覚まさせてしまっごめんね。

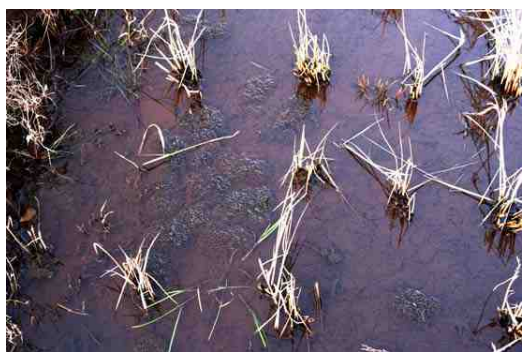
大勢の皆さんの活躍で予想以上に作業が進みました。これからあと 5 回の作業日で何とか田んぼに復活させ



小さな区画にこれだけ人がいても大変な作業!

たいと思います(3月3日、7日、10日、17日、30日)、皆さん、ご協力をどうぞよろしくお願ひします。

(参加者 大人 22 名、小学～高校生 10 名; 報告: 高山邦明)



昨年、開墾した大椎小学校の田んぼに 2 月 13 日ごろ、ニホンアカガエルが 15 個の卵塊を生みました(左の写真)。アシ原を田んぼに戻したことで貴重なカエルたちの産卵場所が増えたのです! 今年アカガエルの産卵数が多い様子で、小山の Y P P 田んぼでも 34 個の卵塊が見つかりました。オタマジャクシたちの成長が楽しみです(高山)。

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 2月7日 オオイヌノフグリ、ホトケノザ、タチツボスミなどが咲く(高山)
- 2月11日 田んぼの草取りをしていたらお腹の大きなメスのアカガエルが出てきた(高山)
- 2月14日 新しいアカガエルの卵塊を多数確認。昨夜産卵されたものと思われる。夜、アカガエルの産卵を目撃(高山)
- 2月21日 タネツケバナがあちこちで開花(高山)

下大和田

- 2月8日 湧水のある暖かな田んぼでアカガエルが孵化(高山)。



ニホンアカガエルの産卵シーン(小山、2009.2.14 夜9時過ぎ)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第94回 下大和田 YPP「味わおう!春の谷津田」

今年も春の野草を食べる会を開きます。セリ、ヨモギ、ニワトコ、ドクダミなどなど、みんなで谷津を散策して摘んで春ならではの味わいを楽しみましょう。コシヒカリの苗代づくりもしますので、希望者はご協力をお願いします。

日時: 2009年3月20日(金・祝)10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、弁当、飲み物、お椀とハシ、敷物など。

参加費: 500円(今回は食材費を含めた特別料金となります)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第42回 小山町 YPP「田んぼづくり」

2月に続いてアシ原を開墾して田んぼを作る作業をします。小さなお子さんでも楽しめる作業ですのでお気軽に参加下さい。自然観察もしますよ!

日時: 2009年3月7日(土)10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 帽子、長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

第111回 下大和田 4月の谷津田観察会とごみ拾い

コブシが咲き、木々は芽吹きはじめうっすらと斜面林の色を染め始めているでしょう。スミレをはじめ春の花も咲いている頃です。冬を越した虫も現れるでしょう。春の谷津田を散策します。午後はコシヒカリの種モミを苗代にまきます。

日時: 2009年4月5日(日)観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 ニホンアカガエルの産卵が終わりました。今年は例年より産卵開始のタイミングが早く、産卵数は最近では記録的に多かったようです。下大和田でも小山でももう小さなオタマジャクシが泳ぎ始めています。今回は2月14日の夜、偶然、産卵シーンの一部始終を目撃することができました。オスたちのクッククッ...という低い鳴き声が静かに響く真っ暗闇の谷津田で行われる生をつなぐ営みに、背筋がゾクゾクするほどの感銘を受けました。米作りを続けること、田んぼを復活させることで今年も少しでもアカガエルたちの手助けができたと思います。(高山邦明)

